



旭日昇天 万象惟明

～「新生」共和会、2年目にあたり、新年のご挨拶～



特定医療法人共和会 理事長
共和病院 院長 山本 直彦

明けましておめでとうございます。

昨年は元号が新たに令和となり、共和会は創立60周年を迎え、無事、記念式典を開催することができました。同時に、サテライトクリニックである精神科の桜クリニックは21周年、内科のみつばクリニックが20周年を迎えました。

共和病院は昭和33年（1958年）に病床数68床でスタートし、翌昭和34年（1959年）に医療法人共和会が発足いたしました。昭和55年に内科病棟（A館）が完成し313床となり、昭和62年には精神科病棟（B館）を新築し374床となりました。その後、数回の病床編成を経て、平成15年にC館が完成し、A館、B館と合わせて、精神科病床289床、内科病床80床となりました。精神科医療では、昭和62年にすべての病室の格子を外し、その後は原則、身体拘束廃止を実行してまいりました。

こうした変遷を経て、5年前に新病棟建設を計画し、A館とB館を解体し、昨年4月に新棟が完成しました。現在、病床のダウンサイズを行い、既存のC館と合わせて、精神科病棟186床（スーパー救急83床、一般60床、療養43床）、内科病棟80

床（医療療養）となりました。その他、前述の2つのクリニックをはじめ、関連事業として現在9つの施設・事業所を運営しています。

国内的にも法人にとっても節目となった昨年は、新病棟開院の他、新たに認知症対応型デイサービス「すずらの里」を開設し、精神科医師による在宅訪問診療も開始し、さらに今年の1月には3か所目の精神訪問看護ステーションが開設され、内科訪問看護ステーションと合わせ4つの訪問看護ステーションとなり、内科領域だけでなく、精神科領域においても地域医療の充実を推進しています。

さて、今年は2年に1度の診療報酬改定の年にあたり、昨年の消費税増税が診療報酬にどう反映されるのか法人としても注視しています。さらに今年は病院機能評価受審の年にあたり、当病院は平成2年に愛知県で22番目、知多地域では初めて病院機能評価認定を受け、以後5年ごとに評価を受けています。今後も質の良い病院づくりと当法人の理念である「優しい医療・楽しい職場」の維持に務めてまいります。



できることもちよりワークショップ

令和元年12月7日（土）当院にて、第3回できることもちよりワークショップを開催しました。ワークショップには、地域の方々を中心にスタッフを含めて40名の方にご参加をいただきました。「できることもちよりワークショップ」は「誰1人取り残されない地域づくり」を目指し、障害をお持ちの方やそのご家族が生活される地域に関係する方が、それぞれ個人ができることを持ち寄ることで、専門職では行えない支援を発掘するという目的があります。

今回は、企画、運営の段階から地域の方にも参加して頂き、より地域に根ざせるようにしました。

はじめて参加された方は、慣れないワークショップに戸惑われている様子がかえりましたが、それぞれの方ができることのアイディアを出す中で、参加者からは「こんなアイディアもあるんだ」「自分にもできることがある」と感想を話される方もいらっしゃいました。

今後も、地域に根ざした活動になるように継続していきたいと思えます。

できることもちよりワークショップ実行委員会

松崎 穂



ICLS

Immediate Cardiac Life Support

みなさん「ICLS」をご存じでしょうか？「ICLS」は「Immediate Cardiac Life Support」の略語であり、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした日本救急医学会が認定している蘇生トレーニングコースです。私は日本救急医学会認定ICLSインストラクターとして他院で医師・看護師・救急隊員などに向けてICLSを教えています。

入院中の患者さんが突然心停止を起こした場合、職員は心肺蘇生を行う必要があります。普段なかなか起こらない心停止に対して心肺蘇生を実施するにはトレーニングが必要です。予期せぬ事態でも職員が自信を持って心肺蘇生に取り組める、知識だけでなく身体で覚えらる勉強会を定期的に関きたい、そのような想いから2019年4月に「ACLS共和」を立ち上げました（ACLSとICLSは、共に心停止時の二次救命処置のことですが、ACLS



「Advanced Cardiovascular Life Support」の方が一般的に認知度は高いのでACLSとしました）。

主な活動内容は、1日で学ぶICLSコースに基づいた内容を分割して毎月業務後に行なっています。シナリオでは当院で起こりうる状況設定を意識しています。看護師と医師と一緒に学べる良い機会であり、毎月学びが深い勉強会となっています。参加者からは「普段なかなか学べない心肺蘇生を学べて勉強になる」「急変時の対応に自信がついた」といった声を多く頂きます。

今後もACLS共和として病院職員にICLSを伝えていながら、心停止以外の救急・急変対応についても講義をしていく予定です。ACLS共和の勉強会を通して共和会の理念のひとつ「優しい医療」の提供ができるように精進していきます。

看護師 鈴木 誉也

リレーコラム



映画「閉鎖病棟」鑑賞記

「閉鎖病棟」を観に行ってきた。映画館内はとても閑散としていた。考えてみれば、一般の生活では精神疾患や精神科病院は「ないとされているもの」なのだ。舞台となった精神科病院も静かな山の上であり、多くの病者・障害者・犯罪者らが一緒くたになり、少ない治療者の下で生活をしている。現代の精神医学や福祉制度は、「患者」の峻別が十分にできていない。病者には治療が、障害者には支援が、犯罪者には刑罰が必要であるが、曖昧にされて閉鎖病棟に生活する者が少なくない。実際、現場で入院受け入れを巡り揉めるのも当然だ。峻別には時代や地域の影響を強く受けるから、一筋縄ではいかない。それに、回復と一言に言っても、個別にまったく様

相が異なるのが常である。映画では、回復を目指す「患者」の様々な容態が描かれている。治療者にはそれぞれの「患者」にとって何が回復的であるかそうでないかの判断が常に必要だが、映画ではそのような治療者の姿は影が薄い。「患者」は皆、孤独である。その多くは、回復のため孤独を突き破ろうと拙くもがいている。しかし、支援の無いもがきは、また新たな遺恨を作る。この映画では、「患者」の自助への支援の難しさが見事に描かれている。



診療部 嶋原 大樹

条件反射制御法 学術集会

当院では、2014年より「やめたくてもやめられない行動」の治療として条件反射制御法を取り入れ、アルコールやギャンブルのみならず、万引きや窃盗、痴漢・盗撮等の性嗜好障害、ゲームやスマホなど様々な対象へ治療を行なっています。

この度その学術集会が、令和元年10月に名古屋で開催されました。当院が事務局となり学会運営を行いました。学会には、日本全国及びアジア圏からこの療法に関わる多くの方々が出席されました。

本学会は「進化システムの過作動に対応する条件反射制御法」というテーマのもと、霊長類や司法に関する学者による対談や講演、当事者の体験談がありました。一般演題では、当院から元医師、伊藤看護師、古橋作業療法士が臨床報告を行い、他にもストーリーカー、万引き、PTSDなど、各機関での取り組みや成果が報告されました。当事者発表では、ストー

リー加害者からの治療に至る経緯や治療効果など、リアルな話を聞くことができました。

対談では京都大学霊長類研究所より後藤幸織准教授をお招きし、生物の進化の視点からやめられない行動を考えると今までにない視点、論点で対談が行われ大変興味深く、来場者からも好評を博しました。

運営を通して、医療・福祉関係者以外にも司法関係者との情報交換をする良い機会となり、今後更に多くの方々のお役に立てたらと改めて感じる学会となりました。



精神保健福祉士 森田 智也

編集後記



新年あけましておめでとうございます。今年の風水のラッキーカラーは緑・茶・金だそうです。緑は「よみがえり」で健康運や才能運のアップ、茶色は「土台」で心の安定を図り、努力が無駄にならないなどの意味があるようです。よって今年の紙面カラーは緑にしました。

昨年は平成から令和に代替わりし、当院も新棟への移

転がありました。長くご不便をおかけしましたが、今年で全ての工事が終了し新しい共和病院として「よみがえり」します。

今年は「土台」を整え、健康アップなどに努め、次への発展につながる年になると良いですね。

広報誌委員会 奥山 晶子

保育所

たんぽぽ

平成4年から始まった院内保育所たんぽぽも、平成から令和への歴史を、子ども達と共に刻んできました。入所する子ども達の年齢は変わらず、生後6か月から3歳までの子ども達です。泣いたり笑ったりしながら心身共に大きく成長していく姿を、本当にたくましく思っています。毎日子ども達の散歩や遊びに向き合う中で、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきたな～と感じています。その中の1つが携帯電話の存在です。子ども達とのごっこ遊びの中で、電話をかける時に「パカッ」と折りたたみ携帯を開けて「もしもし～」とする姿を見るようになったな～と思っていたら、今はすっかりスマホになり指をスライドさせる仕草をよく見るようになりました。また、写真を撮る真似っこをする時も撮った写真を「ほらっ」と指をスライドさせて、撮れてるよ、と見せてくれます。保育士もそれに合わせて指をスライドさせて、「こっちの方がかわいいね」なんて会話を楽しんでいます。時代と共に子ども達の遊びも大きく変化していくのは楽しみの1つでもあります。令和の時代になり令和生まれの赤ちゃんがたんぽぽに来てくれる日も近いのかな、と思います。令和の時代は私たちの生活にどんなものが加わり、子ども達とどんな遊びを展開しているのか今からとても楽しみです。

保育士 山田しのか



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 職員のチームワークと創造性が高められる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が皆様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

愛知県精神保健福祉事業 功労者知事表彰を受けました

この度の長年の精神科看護への取り組みと地域活動が認められ、当院副院長の松下直美さんが愛知県知事から表彰を受けました。

これからも、なお一層の活躍を期待いたします。



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科
精神科・心療内科・循環器内科・肛門外科
放射線科・リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

お知らせ

- 1月18日(土) 第21回 共和病院 地域医療フォーラムを開催します。
場所／共和病院 C館 4階 多目的ホール
- 3月7日(土) 第11回 共和会 研究発表会を開催します。
場所／共和病院 C館 4階 多目的ホール